国立国語研究所学術情報リポジトリ

世界の言語研究所（11）　科学研究最高審議会　スペイン語研究所（スペイン）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2099

科学研究最高審議会　スペイン語研究所（スペイン）

上田　博人（東京大学）

概要

スペインの「科学研究最高審議会」（CSIC: Consejo Superior de Investigaciones Científicas）は巨大な国立研究機関であり[1]，その１部門を形成するのが今回紹介する「スペイン語研究所」（ILE：Instituto de la Lengua Española）である。CSICのILEは，以前に紹介したメキシコの「コレヒオ・デ・メヒコ」（Colegio de México）[2]，コロンビアの「カロ・イ・クエルボ研究所」（Instituto Caro y Cuervo）とともに，伝統的なスペイン語研究の三大拠点の一つである。

ILEの建物はマドリード・プラド美術館の正面近くのMedinaceli通りにある[3]。メインストリートであるプラド通りから１つ奥に入った通りなので，交通量は少ない。国の内外を問わずスペイン語研究者や学生の多くが，ここの図書室を利用している。夜８時まで開館しているこの施設を訪れると，知人や旧友に再会することがしばしばある。ちなみにマドリード大学留学中クラスメートであったMaría José Albalá氏が，2001年11月に再訪したときのスペイン語研究科長になっていた。氏の説明によれば1999年に大きな組織改革があり，現在のILEは次の３部門構成となった[4]。

- 「スペイン語研究科」（Departamento de Lengua Española）
- 「スペイン文学研究科」（Departamento de Literatura Española）
- 「スペイン・アメリカ大陸人類学研究科」（Departamento de Antropología de España y América）

今回の紹介では最初の「スペイン語研究科」を取り上げる。

研究分野

ILEの「スペイン語研究科」の研究分野は次の通りである。文献学（Filología），言語と文学（Lenguaje y Literatura），幼児の言語（Lenguaje infantil），方言学（Dialectología），歴史言語学（Lingüística diacrónica），アメリカ大陸のスペイン語（Español de América），言語学史（Historiografía lingüística），地理言語学（Geografía lingüística），共時言語学（Lingüística sincrónica），辞書学（Lexicografía），語彙学（Lexicología），音声学（Fonética），音韻論（Fonología），記号学（Semiología），社会言語学（Sociolingüística），文体論（Estilística），統語論（Sintaxis），規範文法とスペイン語の傾向（Gramática normativa y tendencias del español），テキスト批評（Crítica de textos）。

主に次の研究プロジェクトを推進させている[5]。

「ヨーロッパ言語地図」(Atlas Linguarum Europae)
「王立アカデミー文法の編纂」(Elaboración de la Gramática de la Real Academia Española)
「新スペイン語語彙宝典」(Nuevo tesoro lexicográfico del español, 1490-1726)
「幼児の言語の自動形態分析」(Análisis morfológico automático del habla infantil)

教育活動

組織改革以前にスペイン語学・文学に限った「スペイン文献学高等課程」(Curso Superior de Filologí Española)[6]があったが，現在はスペイン語学，スペイン文学研究，歴史・文化研究を扱う「スペイン文献学高等専門課程」(Alta Especialización en Filología Hispánica) がある。2001-2002年度のプログラムによれば，スペイン語音声学，スペイン語音韻論，文法の諸問題，書き言葉，専門語彙，ラテン語とスペイン語の語形成，スペイン語史，アメリカのスペイン語の歴史，語用論，情報と言語学，社会言語学，ユダヤスペイン語が，スペイン語部門のコースに含まれている。

機関誌

当研究所はスペイン語研究誌としての『スペイン文献学誌』(Revista de Filología Española) を発行している。編集局長は Antonio Quilis，最新刊は2001年の81号である。高い水準の研究論文が載せられ，巻末の文献録 (Bibliografía) の情報量には定評がある。

文献学研究所

「スペイン語研究所」とは別に，「文献学研究所」(Instituto de Filología) が同じ建物にある。ここではアラビア語，ヘブライ語，ギリシャ語，ラテン語，聖書研究などが行われている[7]。

最近の研究成果

研究動向を知るために所員の最近の出版物からいくつかをピックアップする。

Albalá, María José. 1998. *Ediciones de la Poesía completa de Alfonso Albalá,* Exmo. Ayuntamiento de Coria. En colaboración con Gracia Albalá y Paloma Albalá.
———. 1999. "La homonimia en el léxico infantil", *Miscelánea léxica en memoria de Conchita Serrano,* CSIC, Madrid.
Albuquerque García, Luis. 1998. "Retórica española del siglo XVI en la Biblioteca Nacional de Madrid", *Revista de Filología Española,* 78, 327-351.
———. 1999. "Las humanidades en la era tecnológica", *Nueva Revista,* 62 : 168-171.
García Mouton, Pilar. 1999. "Dialectometría", en J.M. Blecua et al. (eds.) *Filología e informática,* UAB, Barcelona : 335-356.

———. 1999. "Tratamientos en las cartas de Indias", *Estudios de lingüística hispánica, Homenaje a María* Vaquero, Universidad de San José de Puerto Rico : 263-276.

Garrido Gallardo, Miguel Ángel. 1999. "Humanismo y retórica", *Prosopepeya,* 1:49-70.

———. 1999. "Nacimiento de la conciencia trágica", *Mitos* (Univ. de Zaragoza) : 131-137.

Gómez Torrego, Leonardo. 1999. "Los verbos auxiliares. Las perífrasis verbales de infinitivo", en I. Bosque y V. Demonte (eds.) *Gramática descriptiva de la lengua española,* Espasa Calpe, Madrid : 3323-3389.

———. 1999. "La variación en las subordinadas sustantivas: dequeísmo y queísmo", I. Bosque y V. Demonte (eds.) *Gramática descriptiva de la lengua española,* Espasa Calpe, Madrid : 2105-2148.

Hernández Hernández, Esther. 1999. "Algunas particularidades léxicas del primer diccionario americano", *Miscelánea léxica en memoria de Conchita Serrano,* CSIC, Madrid : 339-344.

——— e I. Molina. 1999. "Los nombres de la 'luciérnaga' en la geografía lingüística de América y de España", *Geolinguistique,* 8 : 83-117.

Nieto Jiménez, Lidio. 1998. *El español, lengua universal. Catálogo básico.* Arco / Libros, Madrid, 142pp.

———. 1998. "¿Nuevo siglo de Oro en el estudio del español?" en *La enseñanza del español como lengua extranjera. Del pasado al futuro. Actas del VIII Congreso Internacional de la ASELE.* Univ. de Alcalá, Alcalá de Henares : 79-94.

Torres Martínez, José Carlos de. 1999. "Léxico de la caza del jabalí a la espera (la cerdería)", en *Miscelánea léxica en memoria de Conchita Serrano,* CSIC, Madrid : 379-387.

———. 1999. "El léxico taurino en la Edad Media y el Siglo de Oro", Agencia Española de Cooperación Internacional. *Cuadernos Hispanoamericanos,* 587 : 17-24.

マヌエル・アルバール博士の逝去

2001年8月，当研究所の推進者であり，スペイン文献学の最高権威の一人であるマヌエル・アルバール博士（Manuel Alvar）が逝去された。博士はスペインとアメリカ大陸の各地でスペイン語の精密な現地調査を行い，その成果であるアンダルシア，アラゴン，カナリアス諸島，合衆国南部などの言語地図は現在のスペイン語の実態を知るための貴重な資料となっている。メネンデス・ピダル（Ramón Menéndez Pidal）の文献学の伝統を受け継ぎながら，新たなスペイン語言語地理学という分野を開拓し，多くの後進を育てた業績は高く評価されている。今回お世話になったAlbalá氏をはじめ現在の所員たちの多くが博士の弟子であり，私自身もその末席を汚す者である。

マドリード大学留学中，先生の文献学と言語地理学の講義はとても厳しかったが外国人留学生には配慮し優しくしてくださったことを感謝している。去年「スペイン語研究所」を訪問したと

き，そこで私たちの特設ゼミを指導していたときの博士の穏やかな笑顔と低い声を懐かしく思い出した。私事になって恐縮であるが，ここに博士のご逝去を悼み，哀悼の意を表することをお許し願いたい。

注

1　http://www. csic. es/

2　拙稿(2001)「世界の言語研究所（10)。コレヒオ・デ・メヒコ」『日本語科学』10，128-133.

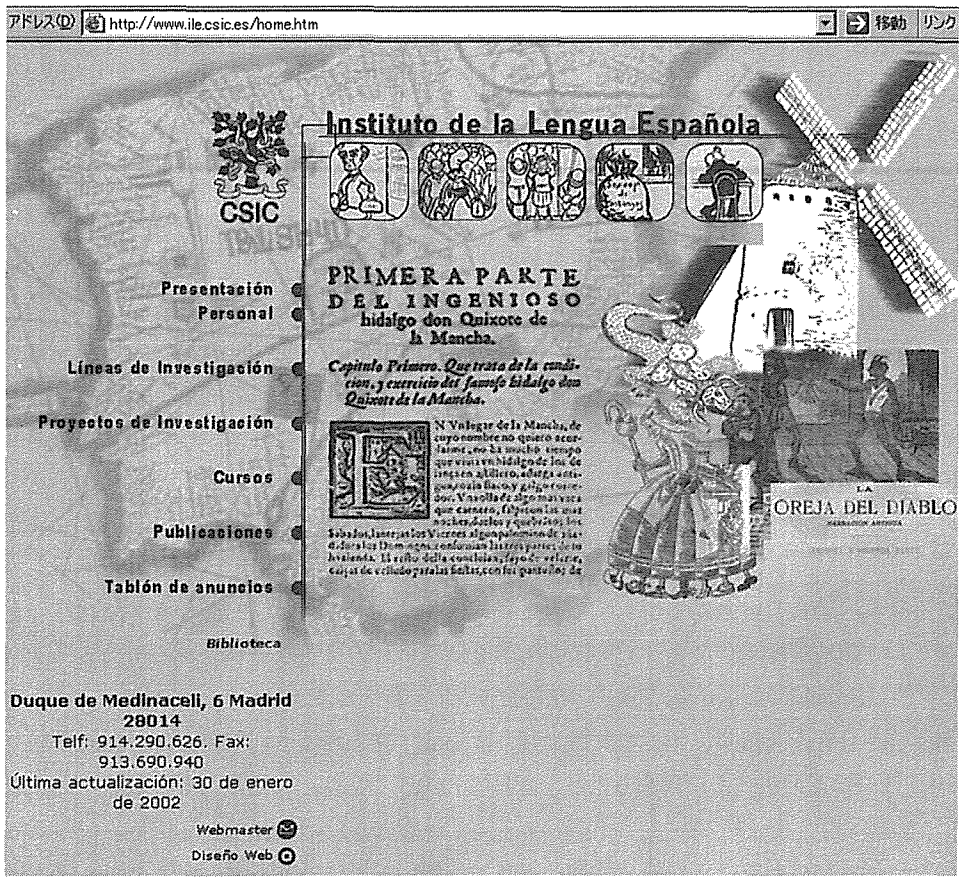
3　所在地：Duque de Medinaceli, 6 Madrid 28014, SPAIN, Fax：913-690-940

4　以下は，Albalá 氏の説明，ILE の Memoria. Instituto de Filología. Instituto de la Lengua Española, 1998-1999, および次のHPに基づく．http://www. ile. csic. es/home. htm

5　この他にも多くの研究プロジェクトがある。詳細については次を参照されたい。
http://www.ile.csic.es/botones/index_proy.htm

6　大学の夏休み期間中に世界各国から一流の研究者を招いて，アンダルシア南端の Málaga 市で開催されていた。日本人教師・学生の出席者も多かったが現在は行われていない。

7　http://www.filol.csic.es/



ILEのHP:http://www.ile.csic.es/home.htm(転載許可済み)